

【資料 13】一般廃棄物最終処分場による災害廃棄物の要埋立処分量と埋立処分可能量の比較結果（シナリオ別）及び検討ケース 1～4

注 1：要埋立処分量と埋立処分可能量の比較を行った。埋立処分が可能か否かについては、年間の埋立処分可能量×3年が要埋立処分量以上の場合は、処分可能として「○」、それ以外の場合は「×」として評価した。
また、参考として埋立処分期間を3年と定めないケースの検討も行った。

注 2：本検討には、現存し供用中の一般廃棄物最終処分場の被災による影響、民間施設の活用、広域連携による埋立処分は考慮していないことに注意すること。本試算は、災害廃棄物の処分体制の構築を図るための、基礎資料として活用することが必要である。

【資料 13】一般廃棄物最終処分場による災害廃棄物の要埋立処分量と埋立処分可能量の比較結果（シナリオ別）及び検討ケース 1～4

検討に用いた条件								
要埋立処分量が最大となる想定災害	鹿児島湾直下	種子島東方沖	県北西部直下	南海トラフ(陸, 津C5)	種子島東方沖	南海トラフ(基, 津C11)	奄美群島太平洋沖(北)	南海トラフ(西, 津C11)
要埋立処分量(t)	182,145	33,238	63,521	69,575	144,946	29,268	87,881	382,489
検討内容								
3年処分期間の可否	年間の埋立処分可能量×3年が要埋立処分量以上の場合「○」、それ以外の場合「×」とする。							
検討ケース1	一般廃棄物最終処分場の残余容量と災害廃棄物の要埋立処分量を単純比較し、残余容量が要埋立処分量以上の場合「○」、それ以外の場合「×」とする。(ケース1の段階では各シナリオ共通)							
→ 検討ケース2	検討ケース1が「○」である場合を対象に、各シナリオ別に必要となる災害廃棄物埋立処分期間を算出した。							
→ 検討ケース3	通常ごみの埋立処分を行いながら災害廃棄物の埋立処分を行う場合に、各シナリオ別に最終処分場の残余容量がなくなるまでの期間を算出し、検討ケース2における災害廃棄物の埋立処分期間以上の場合「○」、それ以外の場合「×」とする。							
検討ケース4	シナリオに関わらず、一般廃棄物最終処分場の残余容量のうち10年分の容量を確保したとき、それ以外の残余容量が災害廃棄物の要埋立処分量以上の場合「○」、それ以外の場合「×」とし、「×」の場合は未埋立処分量を算出した。							
備 考								
※ 一般廃棄物最終処分場の残余容量は、一般廃棄物処理実態調査(環境省)におけるデータ(H27年度)から算出した。								
年間処分実績量の分担率: 低位(10%) 中位(20%) 高位(40%)								
埋立処分可能量: 埋立処分可能量(年間)=年間埋立処分実績量×分担率								
要埋立処分量: 災害廃棄物発生量×要埋立処分割合(災害廃棄物)(10%) - 災害廃棄物発生量×焼却灰発生割合(6%) × 焼却灰資源化割合(0.9%) + 津波堆積物発生量×要埋立処分割合(津波堆積物)(5%)								
※ 検討ケース1が「×」の場合は、検討ケース2及び3の検討は行わない。								

検討ケース	1	2	3	4	5	6	7	全県
	鹿児島地域	南薩地域	北薩地域	始良・伊佐地域	大隅地域	熊毛地域	大島地域	
	鹿児島湾直下	種子島東方沖	県北西部直下	南海トラフ(陸, 津C5)	種子島東方沖	南海トラフ(基, 津C11)	奄美群島太平洋沖(北)	南海トラフ(西, 津C11)
低位シナリオ								
3年処分期間の可否	×	×	×	×	×	×	×	×
検討ケース1	○	○	○	×	○	○	×	○
検討ケース2(年)	53	115	706	—	260	311	—	83
検討ケース3(年)	43×	25×	56×	—	61×	23×	—	43×
中位シナリオ								
3年処分期間の可否	×	×	×	×	×	×	×	×
検討ケース1	○	○	○	×	○	○	×	○
検討ケース2(年)	27	58	353	—	130	157	—	42
検討ケース3(年)	39○	23×	52×	—	56×	21×	—	40×
高位シナリオ								
3年処分期間の可否	×	×	×	×	×	×	×	×
検討ケース1	○	○	○	×	○	○	×	○
検討ケース2(年)	13	29	176	—	65	78	—	21
検討ケース3(年)	34○	20×	44×	—	48×	18×	—	34○
シナリオに関わらないケース								
検討ケース4(未埋立処分量:t)	○	○	×	×	○	×	×	○
			21,449	60,143		21,348	71,690	

【資料 13】一般廃棄物最終処分場による災害廃棄物の要埋立処分量と埋立処分可能量の比較結果（シナリオ別）及び検討ケース 1～4

【低位シナリオ】埋立処分可能量との比較

	1 鹿児島 地域	2 南薩 地域	3 北薩 地域	4 始良・伊佐 地域	5 大隅 地域	6 熊毛 地域	7 大島 地域	全県
鹿児島湾直下	×	×	×	×	×	○	×	×
県西部直下	×	×	×	×	○	○	×	×
甬島列島東方沖	○	×	×	○	○	○	×	×
県北西部直下	○	○	×	×	○	○	○	×
熊本県南部	○	×	×	×	○	○	×	×
県北部直下	○	○	○	×	○	○	○	○
南海トラフ(基、津C5)	×	×	×	×	×	×	×	×
南海トラフ(東、津C5)	×	×	×	×	×	×	×	×
南海トラフ(西、津C5)	×	×	×	×	×	×	×	×
南海トラフ(陸、津C5)	×	×	×	×	×	×	×	×
南海トラフ(基、津C11)	×	×	×	×	×	×	×	×
南海トラフ(東、津C11)	×	×	×	×	×	×	×	×
南海トラフ(西、津C11)	×	×	×	×	×	×	×	×
南海トラフ(陸、津C11)	×	×	×	×	×	×	×	×
種子島東方沖	×	×	×	×	×	×	×	×
トカラ列島太平洋沖	○	×	×	○	×	×	×	×
奄美群島太平洋沖(北)	○	×	×	○	○	×	×	×
奄美群島太平洋沖(南)	○	×	×	○	○	×	×	×
A桜島北方沖	○	×	×	×	○	○	×	○
B桜島東方沖	○	×	×	×	×	○	×	×

○：埋立処分可能量×3年≥要埋立処分量， ×：埋立処分可能量×3年<要埋立処分量

【中位シナリオ】埋立処分可能量との比較

	1 鹿児島 地域	2 南薩 地域	3 北薩 地域	4 始良・伊佐 地域	5 大隅 地域	6 熊毛 地域	7 大島 地域	全県
鹿児島湾直下	×	×	×	×	×	○	×	×
県西部直下	×	×	×	×	○	○	×	×
甬島列島東方沖	○	×	×	○	○	○	×	×
県北西部直下	○	○	×	×	○	○	○	×
熊本県南部	○	×	×	×	○	○	×	×
県北部直下	○	○	○	×	○	○	○	○
南海トラフ(基、津C5)	×	×	×	×	×	×	×	×
南海トラフ(東、津C5)	○	×	×	×	×	×	×	×
南海トラフ(西、津C5)	×	×	×	×	×	×	×	×
南海トラフ(陸、津C5)	×	×	×	×	×	×	×	×
南海トラフ(基、津C11)	×	×	×	×	×	×	×	×
南海トラフ(東、津C11)	○	×	×	×	×	×	×	×
南海トラフ(西、津C11)	×	×	×	×	×	×	×	×
南海トラフ(陸、津C11)	×	×	×	×	×	×	×	×
種子島東方沖	×	×	×	×	×	×	×	×
トカラ列島太平洋沖	○	×	×	○	×	×	×	×
奄美群島太平洋沖(北)	○	×	×	○	○	×	×	×
奄美群島太平洋沖(南)	○	×	×	○	○	×	×	×
A桜島北方沖	○	×	×	○	○	○	×	○
B桜島東方沖	○	×	×	×	×	○	×	○

○：埋立処分可能量×3年≥要埋立処分量， ×：埋立処分可能量×3年<要埋立処分量

【資料 13】一般廃棄物最終処分場による災害廃棄物の要埋立処分量と埋立処分可能量の比較結果（シナリオ別）及び検討ケース 1～4

【高位シナリオ】埋立処分可能量との比較

	1 鹿児島 地域	2 南薩 地域	3 北薩 地域	4 始良・伊佐 地域	5 大隅 地域	6 熊毛 地域	7 大島 地域	全県
鹿児島湾直下	×	×	×	×	×	○	×	×
県西部直下	×	×	×	×	○	○	×	×
館島列島東方沖	○	×	×	○	○	○	×	○
県北西部直下	○	○	×	○	○	○	○	×
熊本県南部	○	○	×	×	○	○	×	○
県北部直下	○	○	○	×	○	○	○	○
南海トラフ(基、津C5)	×	×	×	×	×	×	×	×
南海トラフ(東、津C5)	○	×	×	×	×	×	×	×
南海トラフ(西、津C5)	×	×	×	×	×	×	×	×
南海トラフ(陸、津C5)	×	×	×	×	×	×	×	×
南海トラフ(基、津C11)	×	×	×	×	×	×	×	×
南海トラフ(東、津C11)	○	×	×	×	×	×	×	×
南海トラフ(西、津C11)	×	×	×	×	×	×	×	×
南海トラフ(陸、津C11)	×	×	×	×	×	×	×	×
種子島東方沖	×	×	×	×	×	×	×	×
トカラ列島太平洋沖	○	×	×	○	×	×	×	×
奄美群島太平洋沖(北)	○	×	×	○	○	×	×	×
奄美群島太平洋沖(南)	○	×	×	○	○	×	×	○
A桜島北方沖	○	○	×	○	○	○	×	○
B桜島東方沖	○	○	×	×	○	○	×	○

○：埋立処分可能量×3年≥要埋立処分量， ×：埋立処分可能量×3年<要埋立処分量

【資料 13】一般廃棄物最終処分場による災害廃棄物の要埋立処分量と埋立処分可能量の比較結果（シナリオ別）及び検討ケース 1～4

【低位シナリオ】未埋立処分量(t)(要埋立処分量－埋立処分可能量×3年)

	1 鹿児島 地域	2 南薩 地域	3 北薩 地域	4 始良・伊佐 地域	5 大隅 地域	6 熊本 地域	7 大島 地域	全県
鹿児島湾直下	171,816	15,227	3,665	17,089	23,089		1,570	232,220
県西部直下	156,108	7,344	61,708	4,055			1,570	229,000
甬島列島東方沖		7,427	27,624				1,593	29,930
県北西部直下			63,251	797				50,903
熊本県南部		2,544	25,396	1,497			1,545	20,117
県北部直下				2,447				
南海トラフ(基、津C5)	36,401	11,655	16,178	67,077	100,618	25,990	39,419	297,337.3
南海トラフ(東、津C5)	5,733	10,600	9,198	41,034	82,690	25,990	39,419	214,663
南海トラフ(西、津C5)	65,558	13,825	24,071	60,917	118,074	25,990	39,419	347,853
南海トラフ(陸、津C5)	43,024	14,469	34,433	69,170	112,959	25,990	39,419	339,464
南海トラフ(基、津C11)	36,661	12,839	16,387	67,077	114,042	28,986	40,474	316,466
南海トラフ(東、津C11)	5,996	11,773	9,493	41,034	95,034	28,986	40,474	232,791
南海トラフ(西、津C11)	65,558	14,959	24,412	60,917	133,176	28,986	40,474	368,482
南海トラフ(陸、津C11)	43,049	15,629	34,380	69,170	126,010	28,986	40,474	357,698
種子島東方沖	62,475	32,374	19,165	49,912	143,272	20,093	12,269	339,560
トカラ列島太平洋沖		9,719	4,745		8,207	16,331	16,961	48,521
奄美群島太平洋沖(北)		6,169	3,471			3,785	87,698	90,567
奄美群島太平洋沖(南)		2,675	3,140			1,187	37,675	34,120
A桜島北方沖		2,544	2,883	398			1,545	
B桜島東方沖		2,544	2,883	1,235	2,680		1,545	2,292
未埋立処分量が 最大となる災害	鹿児島湾直 下	種子島東方 沖	県北西部直 下	南海トラフ (陸、津C5)	種子島東方 沖	南海トラフ (基、津C11)	奄美群島太 平洋沖(北)	南海トラフ (西、津C11)
最大未埋立処分量	171,816	32,374	63,251	69,170	143,272	28,986	87,698	368,482

検討のための条件：最終処分場残余容量，最大要埋立処理量，単位体積当たり重量

①全残余容量(m ³)	1,937,380	96,597	66,933	22,132	450,722	28,809	23,328	2,625,901
②最大要埋立処分量(t)	182,145	33,238	63,521	69,575	144,946	29,268	87,881	382,489
	鹿児島湾直下	種子島東方沖	県北西部直下	南海トラフ(陸、津C5)	種子島東方沖	南海トラフ(基、津C11)	奄美群島太平洋沖(北)	南海トラフ(西、津C11)
③単位容積当たり重量(t/m ³)	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2

検討ケース1：最終処分場残余容量と要埋立処分量の単純比較 ※この段階ではシナリオケースには影響されない。

④最大要埋立処分量(m ³)	151,788	27,698	52,934	57,979	120,789	24,390	73,234	318,741
⑤ ④÷①×100(%)	7.8%	28.7%	79.1%	262.0%	26.8%	84.7%	313.9%	12.1%
⑥ ①－④の判定	○	○	○	×	○	○	×	○

検討ケース2：要埋立処分量の処分期間

⑦年間埋立処分実績量(t/年)	34,429	2,876	901	1,350	5,575	937	612	46,068
⑧埋立処分可能量(t/年)	3,443	288	90	135	558	94	61	4,607
⑨災害廃棄物埋立処分 期間(年)(②÷⑧)	52.9	115.4	705.8	—	259.8	311.4	—	83.0

検討ケース3：要埋立処分量の処分期間と処分の可否(災害廃棄物と通常ごみを埋め立てた場合)

⑩残余容量がなくなるま での期間	42.6	25.4	56.3	—	61.2	23.3	—	43.2
⑪ ⑩－⑨の判定	×	×	×	—	×	×	—	×

検討ケース4：残余容量10年を残した，災害廃棄物埋立処分の可否 ※本検討はシナリオケースには影響されない。

⑫10年を残し残余容量(m ³)	1,603,342	64,213	35,060	7,859	356,958	6,600	13,492	2,087,524
⑬ ⑫－④の判定	○	○	×	×	○	×	×	○
⑭未埋立処分量(t) (④－⑫)×③)			21,449	60,143		21,348	71,690	

【資料 13】一般廃棄物最終処分場による災害廃棄物の要埋立処分量と埋立処分可能量の比較結果（シナリオ別）及び検討ケース 1～4

【中位シナリオ】未埋立処分量(t)(要埋立処分量－埋立処分可能量×3年)

	1 鹿児島 地域	2 南薩 地域	3 北薩 地域	4 始良・伊佐 地域	5 大隅 地域	6 熊毛 地域	7 大島 地域	全県
鹿児島湾直下	161,487	14,366	3,395	16,684	21,418		1,387	218,222
県西部直下	145,779	6,483	61,438	3,650			1,387	215,002
甬島列島東方沖		6,566	27,354				1,410	15,932
県北西部直下			62,981	392				36,905
熊本県南部		1,683	25,126	1,092			1,362	6,119
県北部直下				2,042				
南海トラフ(基,津C5)	26,072	10,794	15,908	66,672	98,947	25,711	39,236	283,339.3
南海トラフ(東,津C5)		9,739	8,928	40,629	81,019	25,711	39,236	200,665
南海トラフ(西,津C5)	55,229	12,964	23,801	60,512	116,403	25,711	39,236	333,855
南海トラフ(陸,津C5)	32,695	13,608	34,163	68,765	111,288	25,711	39,236	325,466
南海トラフ(基,津C11)	26,332	11,978	16,117	66,672	112,371	28,707	40,291	302,468
南海トラフ(東,津C11)		10,912	9,223	40,629	93,363	28,707	40,291	218,793
南海トラフ(西,津C11)	55,229	14,098	24,142	60,512	131,505	28,707	40,291	354,484
南海トラフ(陸,津C11)	32,720	14,768	34,110	68,765	124,339	28,707	40,291	343,700
種子島東方沖	52,146	31,513	18,895	49,507	141,601	19,814	12,086	325,562
トカラ列島太平洋沖		8,858	4,475		6,536	16,052	16,778	34,523
奄美群島太平洋沖(北)		5,308	3,201			3,506	87,515	76,569
奄美群島太平洋沖(南)		1,814	2,870			908	37,492	20,122
A桜島北方沖		1,683	2,613				1,362	
B桜島東方沖		1,683	2,613	830	1,009		1,362	
未埋立処分量が 最大となる災害	鹿児島湾直 下	種子島東方 沖	県北西部直 下	南海トラフ (陸,津C5)	種子島東方 沖	南海トラフ (基,津C11)	奄美群島太 平洋沖(北)	南海トラフ (西,津C11)
最大未埋立処分量	161,487	31,513	62,981	68,765	141,601	28,707	87,515	354,484

検討のための条件：最終処分場残余容量、最大要埋立処理量、単位体積当たり重量								
①全残余容量(m ³)	1,937,380	96,597	66,933	22,132	450,722	28,809	23,328	2,625,901
②最大要埋立処分量(t)	182,145	33,238	63,521	69,575	144,946	29,268	87,881	382,489
③単位容積当たり重量(t/m ³)	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2

検討ケース1：最終処分場残余容量と要埋立処分量の単純比較 ※この段階ではシナリオケースには影響されない。								
④最大要埋立処分量(m ³)	151,788	27,698	52,934	57,979	120,789	24,390	73,234	318,741
⑤ ④÷①×100(%)	7.8%	28.7%	79.1%	262.0%	26.8%	84.7%	313.9%	12.1%
⑥ ①－④の判定	○	○	○	×	○	○	×	○

検討ケース2：要埋立処分量の処分期間								
⑦年間埋立処分実績量(t/年)	34,429	2,876	901	1,350	5,575	937	612	46,068
⑧埋立処分可能量(t/年)	6,886	575	180	270	1,115	187	122	9,214
⑨災害廃棄物埋立処分期間(年)(②÷⑧)	26.5	58	353	—	130	157	—	42

検討ケース3：要埋立処分量の処分期間と処分の可否(災害廃棄物と通常ごみを埋め立てた場合)								
⑩残余容量がなくなるまでの期間	39.1	23.3	51.6	—	56.1	21.4	—	39.6
⑪ ⑩－⑨の判定	○	×	×	—	×	×	—	×

検討ケース4：残余容量10年を残した、災害廃棄物埋立処分の可否 ※本検討はシナリオケースには影響されない。								
⑫10年分残し残余容量(m ³)	1,603,342	64,213	35,060	7,859	356,958	6,600	13,492	2,087,524
⑬ ⑫－④の判定	○	○	×	×	○	×	×	○
⑭未埋立処分量(t) ((④－⑫)×③)			21,449	60,143		21,348	71,690	

【資料 13】一般廃棄物最終処分場による災害廃棄物の要埋立処分量と埋立処分可能量の比較結果（シナリオ別）及び検討ケース 1～4

【高位シナリオ】未埋立処分量(t)(要埋立処分量－埋立処分可能量×3年)

	1 鹿児島 地域	2 南薩 地域	3 北薩 地域	4 始良・伊佐 地域	5 大隅 地域	6 熊毛 地域	7 大島 地域	全県
鹿児島湾直下	140,832	12,641	2,855	15,874	18,073		1,018	190,214
県西部直下	125,124	4,758	60,898	2,840			1,018	186,994
甬島列島東方沖		4,841	26,814				1,041	
県北西部直下			62,441					8,897
熊本県南部			24,586	282			993	
県北部直下				1,232				
南海トラフ(基,津C5)	5,417	9,069	15,368	65,862	95,602	25,147	38,867	255,331.3
南海トラフ(東,津C5)		8,014	8,388	39,819	77,674	25,147	38,867	172,657
南海トラフ(西,津C5)	34,574	11,239	23,261	59,702	113,058	25,147	38,867	305,847
南海トラフ(陸,津C5)	12,040	11,883	33,623	67,955	107,943	25,147	38,867	297,458
南海トラフ(基,津C11)	5,677	10,253	15,577	65,862	109,026	28,143	39,922	274,460
南海トラフ(東,津C11)		9,187	8,683	39,819	90,018	28,143	39,922	190,785
南海トラフ(西,津C11)	34,574	12,373	23,602	59,702	128,160	28,143	39,922	326,476
南海トラフ(陸,津C11)	12,065	13,043	33,570	67,955	120,994	28,143	39,922	315,692
種子島東方沖	31,491	29,788	18,355	48,697	138,256	19,250	11,717	297,554
トカラ列島太平洋沖		7,133	3,935		3,191	15,488	16,409	6,515
奄美群島太平洋沖(北)		3,583	2,661			2,942	87,146	48,561
奄美群島太平洋沖(南)		89	2,330			344	37,123	
A桜島北方沖			2,073				993	
B桜島東方沖			2,073	20			993	
未埋立処分量が 最大となる災害	鹿児島湾直 下	種子島東方 沖	県北西部直 下	南海トラフ (陸,津C5)	種子島東方 沖	南海トラフ (基,津C11)	奄美群島太 平洋沖(北)	南海トラフ (西,津C11)
最大未埋立処分量	140,832	29,788	62,441	67,955	138,256	28,143	87,146	326,476

検討のための条件：最終処分場残余容量、最大要埋立処理量、単位体積当たり重量								
①全残余容量(m ³)	1,937,380	96,597	66,933	22,132	450,722	28,809	23,328	2,625,901
②最大要埋立処分量(t)	182,145	33,238	63,521	69,575	144,946	29,268	87,881	382,489
	鹿児島湾直下	種子島東方沖	県北西部直下	南海トラフ(陸,津C5)	種子島東方沖	南海トラフ(基,津C11)	奄美群島太平洋沖(北)	南海トラフ(西,津C11)
③単位容積当たり重量(t/m ³)	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2

検討ケース1：最終処分場残余容量と要埋立処分量の単純比較 ※この段階ではシナリオケースには影響されない。								
④最大要埋立処分量(m ³)	151,788	27,698	52,934	57,979	120,789	24,390	73,234	318,741
⑤ ④÷①×100(%)	7.8%	28.7%	79.1%	262.0%	26.8%	84.7%	313.9%	12.1%
⑥ ①-④の判定	○	○	○	×	○	○	×	○

検討ケース2：要埋立処分量の処分期間								
⑦年間埋立処分実績量(t/年)	34,429	2,876	901	1,350	5,575	937	612	46,068
⑧埋立処分可能量(t/年)	13,771	1,150	360	540	2,230	375	245	18,427
⑨災害廃棄物埋立処分 期間(年)(②÷⑧)	13.2	28.9	176.4	—	65.0	78.0	—	20.8

検討ケース3：要埋立処分量の処分期間と処分の可否(災害廃棄物と通常ごみを埋め立てた場合)								
⑩残余容量がなくなるま での期間	33.5	20.0	44.2	—	48.1	18.3	—	33.9
⑪ ⑩-⑨の判定	○	×	×	—	×	×	—	○

検討ケース4：残余容量10年を残した、災害廃棄物埋立処分の可否 ※本検討はシナリオケースには影響されない。								
⑫10年分残し残余容量(m ³)	1,603,342	64,213	35,060	7,859	356,958	6,600	13,492	2,087,524
⑬ ⑫-④の判定	○	○	×	×	○	×	×	○
⑭未埋立処分量(t) (④-⑫)×③)			21,449	60,143		21,348	71,690	